



【長い目でみる信心】

野毛教会長・鈴木重光先生の奥様、鈴木信子さんにお話頂きました。

鈴木信子さんは、昭和十五年東京都品川区で、4人兄弟の長女としてお生まれになりました。お祖父様の代から家族で大崎教会に参拝されており、お祖父様は総代の御用を務められました。信子さんも小さい頃からお参りし、教会のガールスカウトにも参加してました。

Qそんな中、信子さんが十歳の頃、九死に一生を得られる出来事があったそうですね。

信子さん（以下信）..私は十歳の頃に、盲腸に罹りました。町のお医者さんにみてもらっていたのですが、盲腸がわからなかったのか、家で養生するだけでした。

そうする間もお腹はどんどん腫れてきました。あまりに様子がおかしかったので、近所の方が別のお医者さんを紹介して下さい、診ていただきました。診察後、お医者さんは「このままだと娘さんはあと一時間の命です。」と言われたそうです。

大きな病院に緊急入院・手術が行われ、お

かげを頂き、奇跡的に手術は成功しました。盲腸は腹膜炎になっていて、お腹にメスをいれるかいけないかの時点で、盲腸は破裂したようです。手術室は魚の腐ったにおいが充満し、手術室と一緒にいた父は、しばらく魚を食べることが出来なくなった、と言っていましたよ。

Qそれは大変でしたね。今だと考えられない事ですね。



川でスベって山でコロんで……とってきました

Interview

第24回 鈴木 信子さん（野毛教会）

ていたのに、なかなかでてこないのです。

このままでは赤ちゃんが危ないと、夜中に帝王切開に切り替えて、無事長男を取り上げて頂きました。三八二〇グラムの大きな赤ちゃんでしたが、仮死状態で産まれてきました。もし小さい赤ちゃんだったら、死んでいたか

信..その後、この盲腸の手術の痕が癒着してたように、長男出産の時思わぬトラブルを引き起こしました。当時産科で有名だった病院で出産したのですが、赤ちゃんの髪の毛まで見え

もしれない、と言われました。産後の回復も順調で、後から色々話を伺い、おかげを頂いた事を実感しました。教会長や家族のご祈念のおかげだと思えます。

Qお祖父様は総代の御用をされるほど熱心だったのですね。

信..後になって母から聞いた話ですが、祖父と祖母、両親と私達四人の子供の八人で暮らしていた頃、祖父は戦後小学校の用務員の職についていて、退職金をかなりいただいたそうです。当時私達家族は借家住まいでして、母は心のすみで（そのお金で一軒家を買えたらな）と思っていたそうです。

しかし祖父は、そんな母の思いを知ってか知らずか、退職金のほとんどを、御本部参拝や神様の御用に使わせて頂きました。母は少しがっかりしたようですが、数十年経つてみると、両親や私達兄妹の皆が、家を持つことが出来たのです。

Qお祖父様の信心の賜物でしょうか。

信..それもありません。私は今年で七十にならせて頂きましたが、そういう色々な事柄を通してきて、年を重ねていくほど、金光教の信心は長い目で見させて頂く事が大事だな、と感じます。その時その問題と直面してるときは、なかなかありがたいとは思えないかもしれませんが、しばらく時が流れて気が付くと、あれもこれもおかげ頂いていたのだな、というのが、金光教の信心のように思えます。

ありがとうございました。（今村則子）

共に育つ

大明教会 川 込 光 貴

現在、個々の教会において、参拝に来る子供の人数は、あまり多いとは言えません。でも皆無という訳ではなく、如何に金光教が魅力的なのかを知ってもらうことも必要ではないでしょうか。その一つの手だてとしてイベントで楽しむということがあります。

正論を言うことは間違いではありませんが、普通、人は正論で捲し立てられても、聞く人にとってはストレスにしか感じません。特に反論できない人は感情的になってしまいます。正論は大切なことですが、「楽しむ」という息抜きも人が育つ中では必要ではないでしょうか。

金光様の御理解や御教えの一つ一つは天地の道理にかなったすばらしいものです。しかし、その御理解や御教えは、悩みや難儀の根本にあるものを天地の道理と見比べて、そのズレを正し、その結果として心と身体が救われた人たちの逸話だったのでないでしょうか。ただ闇雲に「金光様がこう言っています。」と並べても人の心に響くものではありません。無理強いではなく根本の理解が大切と私は考えます。

イベントにおいても、気持ちを受け取る人に根本的な道理を理解していただけるようなものを提供したいと思えます。

一つの教会での活動にも限界はありますが、連合会を通して連携や協力で広く展開することが出来ます。

連合会におけるイベントを通して、参加する子供たちや御用をさせていただく大人を含め、金光教のいろいろな出会いやふれあいを大切にして、金光教のイベントに参加することが「楽しみ」だという気持ちを持っていたきたいと思います。

そして、他人のことや自分がお世話になっている周りのことを考えられる人に、私も含めてお育ていただきたいと思えます。

☆連合会からのお知らせ

▼公開講演会

本年は教団独立二一〇年という節目となります。

このお年柄に、神奈川県宗教連盟の「宗教文化講座」を、教師信徒合同の研修会の場とさせていただきますので、多くの方々にご参加いただけますようお知らせいたします。

・日時 平成二十二年九月三日(金)

午後二時～四時

・会場 鎌倉芸術館 小ホール

・講師 平本行雄先生

(金光教川西教会長・神戸刑務所宗教教誨師・川西市スポーツ指導員・日本ソフトボール協会指導員)

・参加費は無料です。どなたでもご参加ください。

・当日は、講話の後にアニメ「金光さま」の上映も予定しています。詳細は、各教会配布のチラシなどを参照ください。

かりんの輪



記念祭の御用を頂いて

平塚教会 熊 坂 和 枝

平成21年11月7日は平塚教会では、こぞつて布教80年祭を迎えさせていただく日でした。天候にも恵まれ、無事に盛会裡にお仕えなされ、信徒として胸が一杯でした。多くの教会の先生方、信徒の方々も遠方よりお運び下さり、秋日和の中、お祝が無事行われました事、神様の御加護にお礼申さねばと思えました。

思えば21年度は、80年祭に向け準備が始まり、私共は記念誌作成のお役でまず原稿をお寄せいただくことを願ひ、96歳の方、93歳の方には来し方を語っていただき綴らせていただく中で、金光様に生かされ通しのおかげを実感できたこと、有難い極みでありました。そんな取り組みの中、私は7月2日の連合会の「女性のつどい」のお役をいただき、無我夢中での拙いお話を『かりん』に取り上げて下さりと、勿体ない日々でありました。なんとと言っても、昨年10月の立教150年金光大神大祭には、96歳の三川さんを先頭にこぞつて参拝が叶い、70数年金光様の中に生かされてきた私は、身の引き締まる思いと共に、感謝の気持ちで湧いて参りました。そして平塚教会80年祭祝祭の当日、突然に『かりん』の投稿の御用を仰せつかり、私が何を!!と考えあぐんだ末、記念誌の取り組みのことを思い返し有

☆ 『女性のつどい』

登戸教会で開かれる

7月3日(土)、37名の参加のもと、三時間近く和田文子さん・我八十さん親子のお話に聴き入った。かつてご主人は熱心に信徒会の御用をされていた。その後の十年近くの間に、そのご主人は他界し、長男である我八十さんは脳出血で半身不随となる。その間の壮絶な闘いの日々を、まるでその場に居合わせているかのように生々しく語ってくださいました。

当時ご主人は設計事務所長として仕事に心血を注いでおられた。ある日、顔が黄色くなっているのに気が付き軽い気持ちで検査したが、癌は思いの外進行していて、治療の甲斐もなく帰らぬ人となられる。殊の外家族を愛されていただけに、その哀しみはいかばかりであったろう。その後我八十さんは、お父さんが勤めていた会社に採用され大阪勤務となる。弟さんも親元を離れていて、独りぼっちになられたお母さんはどうしよう



もない寂しさに襲われていた。それから一年後に、我八十さんが戻ってこれられホッとされたのも束の間、今度は我八十さんが職場で倒れる。生死の境をさまよったが、よき医師との出会い、家族の懸命な支え、そして本人の生命力により三度の手術も乗り越えられる。その度に、生きている、助かっている、神様ありがとうございます、とお父さんありがとうと手を合わせられた。ICUから大部屋へと移り、リハビリ科と自立支援センターを経て家に帰れるまでになり、現在は在宅で仕事をし、将来は通勤できることを夢見て、前向きに元氣な気持ちで明るく過ごされている。この様になったからこそ味わえる幸せ、命あることへの感謝の気持ちがお八十さんの体からあふれていた。最初はお礼参りの気持ちで教会に足を運んだが、先生はじめ信者さんたちの温かさに触れて自然にお参りするようになる。教会では心に残る言葉に出会い、それがきっかけで心に響いた言葉をメモするようにもなった。これからは自分が得たものを多くの人に伝えていきたいとも語られた。つぶやきのようにもらされた、「結婚もしたい、子供もほしい」と。それから看護師さんに恋をしたことなど、温かい家庭で育まれた我八十さんの人柄が伝わってくるようで、参加者の皆さんまでも幸せな気持ちにさせてくれた。

(吉岡裕子)

難くお受けすることに致しました。

さて、私共平塚教会では8月に記念誌の完成を目標に、委員共々校正に取り組んでおりました。出版社の方が何回かわが家へ訪問して下さい、廊下に原稿を広げての作業でした。そんな折、一番下の6歳の孫の友里が、夏休みにおばあちゃん家へ旅行と称して、二泊三日で何回か一人で来ており、掃除や料理の手伝いと大変に有難い夏休みを過ごしていました。

今日が最後の校正という日の出来事、孫の友里は出版社の方とは2回目の対面でした。私がお菓子を包むので、茶の間にいた友里に「ペーパーの箱を!!」と頼みました。すると友里は箱と一緒に、知人からいただいた男の子用のミツキーのハンカチを畳んで、私の後ろから出版社のお兄さんあげると合図するのです。その添え方が何とも微笑ましく笑ってしまうのを覆いながら、出版社の方に差し出すと、驚きながらも快く胸ポケットに入れ「友里ちゃんによろしく」と言いつて帰って行かれたのです。私は編集に携わる若者の心の深さに感じ入るとともに、友里の心根が愛おしく心に留め置きました。

私は金光様の御加護をひしひしと感じ、全原稿を出版社の方に託しましたが、門で見送りながら、出版社の方が6歳の友里を一人の人間として受け止めて下さったことに、感謝の気持ちで一杯になりました。そして日々心豊かにと願う私は、

「喜びは豊かな心から。豊かな心はすべてを大切に作る心」と御教えを唱えました。

☆立教一五〇年記念 金光教ヨーロッパ大会 参加者の声

前号で「立教一五〇年記念金光教ヨーロッパ大会」の概要をご紹介しました。今号では、金光教国際センター発行の『ヨーロッパ通信』から、大会に参加された方々の声をお届けします。

櫻井君江さん (神奈川県・鶴見教会)

この度のヨーロッパ大会、多くの方々のお祈り添えを頂き、無事させて頂くことができました。正直、これ程手ごたえのある会になるとは思っていませんでした。「良かった」と言って頂いた陰に、ロンドン大学の教授方のお力が大きかった事を思わせて頂き、そのお力を頂ける、これまでのセンターの方々の御努力、かつ関わり方を感じさせて頂きました。

そして、在欧の方々が信心を求めておられる姿勢に触れさせて頂き、大変有難い大会でした。せっかくさせて頂くのだから、何とか喜んで頂ける会にしたい、お役に立ちたい、という思いで臨みました。しなければ、何も進まない。何でも、という思い、必ずという思いで向かえば、人間の思う以上のお働きを神様から頂けるということ、また、今回の御用が神様の願いであったということを確認できたロンドン大会でした。

寺本晴美さん (ロンドン在住)

今回、立教150年のイベントがロンドンで開催されました。

日本国内さまざまな地方より、この地に来られ、吉備舞を披露されました。会場いっぱいの人達は、その静かな舞と稀に聴く音楽の魅力、オリエンタ

ル文化を少しの時間楽しんだことかと思えます。宗教学の英国人教授の挨拶や金光教の解説は、彼の適役かと感じました。

私は実兄夫婦が熱心な信者で金光教を知りました。以前、当地に住んでおられた熱心な信者さんが、毎月定例の教典の勉強会をされ、それを聞く事が、楽しみの一つでした。おかげは和賀心にあります。その言葉に強い衝撃を受けました。私自身、身体が弱く、この信者さんが、何かと気を揉んでくださり、一命を助けて頂いたと感謝致しています。決してオーバーではありません。(抜粋)

河野栄一さん (山口県・徳山教会)

先般は思いがけず、ロンドン公演という貴重な体験をさせて頂いたとき、もったいない思いでいっぱいです。これまでも、海外体験は新婚旅行も含め2度ほどありましたが、今回ほど有意義な体験はありませんでした。特に、信奉者集会など、現地の方々との交流が出来、お話を聞くことが出来た事が何より素晴らしい体験となりました。言葉や文化に日本との違いを感じましたが、その中で、どこにあっても天地の神様のお働きは全く変わらないものを実感させて頂きました。

コンサートでは大変緊張しましたが、ここまで吉備舞を守ってこられた先師へ思いを馳せ、「自分がするのではない」と思い返し「おかげさまで、吉備舞がここまで来ました。どうぞ、私の体をお使いください」とお祈りしながら演奏させて頂きました。おかげで、皆さんに喜んでいただく事ができて幸いです。また、こういう機会があるかわかりませんが、何かお役に立てればと思います。ありがとうございました。

〈な・が・れ〉

「おかげ探しの信心」

横須賀教会 木本紀義

私にとって就寝前の一時は、一人だけになれる静かな至福の一時です。今日一日を思い起こし、感謝の基を尋ねてみるのです。すると出遭った事柄の中に、その時々には気付かなかつた神様のみ思いや細やかなお働きに気付かせて頂けるのです。当然、自身の心の中に有りよう、足りなさや至らなさの上にもお気付けが頂けるのです。まどろみの中で、行きつ戻りつ思い巡らせる程度のことなのですが、この就寝前の一時が私にとっては新たな信心の発見や活力に繋がっている様に思います。

私共の教会では、「おかげ探しの信心をしよう」との実践目標を掲げ、その取り組みを進めています。生活万般の些細な事柄を通して、神様のお働きに気付かせて頂くことは、おかげの自覚を確かなものとし、神様を一層身近に頂くことにもなるのです。取り立てて時間を作らずとも、就寝前の一時を工夫してみても如何でしょうか。但し、深刻な問題は就寝前は避け、翌日、教会で先生と一緒。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田光一

〒221-0057 横浜市神奈川区青木町六一二十五
金光教神奈川教会内